

読む ミルク

2008年、新たな年が
幕を開けた。新しい年を、
人々はどのような思いで迎
えたのだろうか。

新年を寿ぐ慶事の数々
は、心に安らぎを与えてく
れる。華やかな祝賀は笑顔
を連れてくる。多くの人が
が幸福を覚え、喜びを共有
したことだろう。私自身も、
その喜びに与った一人だ。
ただ、私の目には、そこに
更なる意味が浮かび上がっ



詩人 四方 健二

てくる。

新年の祝いは、今ある命
を祝うもの。にぎやかな
宴は、命の華やき。私の
目に映る新年は、生きてい
る幸せに輝いている。微笑
ましいぬくもりの色は、命
を飾る彩りだ。

私は、短命を余儀なくさ
れた難病を抱えている。私
にとつて元日は、昨年一

我々は支え合い生きていく

年間を無事生きてきたこと
を確信する日であり、新た
な一年を生き抜く決意を心
に刻む日である。

私の置かれている状況
は、決して楽観できるもの
ではない。体力の衰退は著
しく、わずかなことでさえ
も、体調を崩す原因となっ
てしまう。指一本動かせな
い体は、常に看護を必要と
する。私の命は、献身的な
看護スタッフのおかげでつ
ながっていると言えるだろ
う。厳しい現実がそこには
ある。

しかし、私はこの人生を
あきらめることなく、希望
を持って生きている。私に



タイトルは「支える手」。四方
さんがパソコンソフトで作成

は、支えてくれる多くの人
々がいる。心ある人たちが、
私の人生に希望の灯りをと
もしてくる。その灯りは
道標であり、闇を掃う光だ。
それらは、いつも私の背中
を押してくれている。だか
らこそ、私は迷うことなく
前へ進み、訪れる危機に負
けずに生きていけるのだ。
そうしてまた、私は新しい
年を迎えた。

この幸せは、なによりも
大きい。そこには、支えて
くれた人々の姿があり、彼
らに対する感謝の思いが、
私の心を温かく満たしてく
れる。訪れた新年は、私の
周りの人たちと共にわかみ

取ったものだ。
「私のそばには、人々の
真心がある。私は独りでは
ない」。この事実が、私に
とって生きる原動力だ。周
りの人々の存在があるから
こそ、私は私のままで生き
ていられるのだ。

私は人々に支えられて生
きている。しかし、それは
私だけに限られたことなの
だろうか。あなたのこれま
での人生を振り返ってほし
い。両親、家族、朋友、恋
人、配偶者……。数多くの
人たちの顔が浮かんでくる
ことだろう。全ての人が、
あなたにとって大切な存在
だ。同僚、恩師、通いつ

新年を迎えたことを機
に、改めて考えてみてはど
うだろう。支え合って生き
ていることについて。生か
されて生きていることにつ
いて。きっとあなたの心は
温かな思いで満たされるこ
とだろう。その心をそっと
抱きしめれば、幸せはあな
た自身を包み込んでくれる
ことだろう。あなたは独り
ではない。

めた店の店員、すれ違っ
た人々。あなたの周りには、
数多くの人の存在がある
はずだ。

人は様々な存在とのなか
わりの中で生きている。互
いに影響を受けながら、
今日という日を生きてい
る。あなた自身も、その
存在の一つであり、支え合
って生きる人々の一人なの
だ。